

基本項目記入数

25

チャレンジ項目記入数

5

分類	No.	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																	
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
環境	22	【環境汚染予防】 ・廃棄物や有害化学物質の適切な管理、及び処理に取り組んでいる。	●		フォークリフトをEVIに変更、社用車をガソリン車からハイブリット車へ変更することにより、CO2やNox等有害物質の低減に取り組んでいる。			3.9		6.3					11.6	12.4		14.1	15.1				
	23	【エネルギー】 ・電力やガソリンなど、自社のエネルギー使用量を把握し、その削減に取り組んでいる。	●		事業所(本社・田崎事務所)の電気使用量を把握し、2023年8月末より削減実施を行っている。 事務所(本社・田崎事務所)の電気使用量を領収書にて把握している。 営業時間の短縮を行い、電気の総使用量を削減・こまめな節電を行う。							7.3					13						
	24	【温暖化対策】 ・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる。	●		【予定】2026年9月までにCO2の排出量を、県ホームページの簡易計算シートを用いて把握し、削減を行っていく。 事業で利用するフォークリフトを全車電動化したり、社用車の更新の際にガソリン車からハイブリット車へ変更して、CO2排出量削減に取り組んでいる。		2.4					7.2 7.3 7.a				12.4	13	14	15				
	25	【生物多様性】 ・自社活動が環境(生物多様性や生態系等)に悪影響を及ぼさないように配慮している。	●		かんきつ類生産において、環境負荷の少ない農薬・肥料を利用しており、環境に悪影響が出ないように配慮している。					6.6								14	15				
	26	【効率的な資源利用】 ・ごみを減らし、資源を有効的に繰り返し使うため、発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)に取り組んでいる。	●		廃段ボールを地場リサイクル業者へ委託している。 生産物であるかんきつ類については、規格外みかんは加工し、ジュースやアイスクリームとして販売している。									9.4			12.2 12.4 12.5		14.1	15			
	27	【水の管理】 ・熊本の水資源の質と量の保全に取り組んでいる。	●		かんきつ類の生産において、農園内の貯水池(湧き水・地下水)を利用しており、水道水の利用を行わず、環境負荷の低減を行っている。		2.4				6.1 6.3 6.4 6.6 6.b					11.5			14.1 14.2 14.3	15		17	
	28	【環境に配慮した製品等】 ・環境に配慮した製品の購入や製品の開発・製造に取り組んでいる(グリーン購入、リサイクル製品認証等)。	●		地場の農産物を主に取り扱っており、地産地消を旨とする活動を行っている。 2023年6月よりグリーンマーク商品の購入を実施している。									9.4			12.4 12.5	13	14	15			
	29	【食品ロスの削減】 食品ロスの削減に取り組んでいる。	●		食品の安全・安心を企業の重点目標として設定しており、廃棄青果物の有効活用を通じて食品ロスの削減に取り組んでいる。	1	2				6.4							12.3		14	15		17
	30	【緑の保全管理】 ・壁面緑化や植栽など緑の創出と保全、管理に取り組んでいる。	●														11.6 11.7		13.1 13.3		15		17
	31	【エネルギー効率の見直し・再生可能エネルギーの利用】 ・高効率機器の導入等によるエネルギー使用率の改善または再生可能エネルギーの利用に取り組んでいる。	●										7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.5		13.1 13.3				
	32	【森林資源の循環利用に向けた取組み】 ・「伐って、使って、植えて、育てる」の持続的な森林利用への取組みを推進している。	●								6				9.4		11.3 11.4 11.5	12.2	13		15		
	33	【植林等の取組み】 ・植林等の森林整備活動に取り組んでいる。	●								6.1 6.3 6.6						11.3 11.4 11.5	12.2	13		15		
	34	【海洋ごみ】 ・環境中で分解しにくいプラスチックの使用削減等、海洋ごみ、海洋汚染の防止削減に貢献している。	●															12.2 12.5		14			
	35	【環境に配慮した交通手段】 ・電車やバスなどの公共交通機関の利用や、電気自動車や水素自動車などの環境にやさしい自動車の使用を促進している。	●			事業で利用するフォークリフトを全車電動化しており、社用車も更新の際にガソリン車からハイブリット車へ変更している。今後も事業用トラックを適宜ハイブリット車へ更新する。									9.4		11.2		13.1 13.3				
36	【2050年CO2排出実質ゼロへの取組み】 ・2050年CO2排出実質ゼロを目指し、計画的にCO2削減に取り組んでいる。	●										7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.6 11.a	12.8	13				17.2	

